

優秀賞

【社会科】

主体的に社会に参加する生徒を 育てる単元開発

静岡大学教育学部附属島田中学校

こぼ かず なり
木場 和成



〈概要〉

「主体的に社会に参加する生徒を育てる単元開発」を実践することで、学んだ力（何を知っているか、何ができるか）・学ぶ力（知っていること・できることをどう使うか）・学ぼうとする力（どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）の力をつけることができると考えた。本校社会科においては、このような資質・能力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする活動を充実させている。このような活動を実践するための学習過程として、課題の把握・課題の追究・課題の解決（提案）を位置づけている。

I はじめに

新学習指導要領歴史的分野目標(2)においては次のような記述がある。

【表1 社会科 歴史的分野目標(2)】

歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的、多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

歴史的分野の学習を通じて育成すべき思考力・判断力・表現力に関わるねらいである。表1の下線の視点に着目して、課題（問い）を立て、課題の追究や解決（提案）する活動が展開される。具体的には、「いつ、どこで、誰によって起こされたか」、「前の時代とどのように何が変わったのか」、「どのような時代だったのか」、「なぜ起こったのか（何のためにおこなわれたか）」、「どのような影響を及ぼしたのか」というような課題（問い）で構成される。これらの社会的事象を多面的、多角的に考察する社会科には必要不可欠な問いといえる。また、「歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか」という問いなどは、未来を構想する社会科の課題（問い）として必要なものである。このように、現在とのつながりなどを常に考えた上で、よりよい未来を創造するために主体的に考えられる授業をつくることこそ、研究テーマに迫る手立てだと考える。

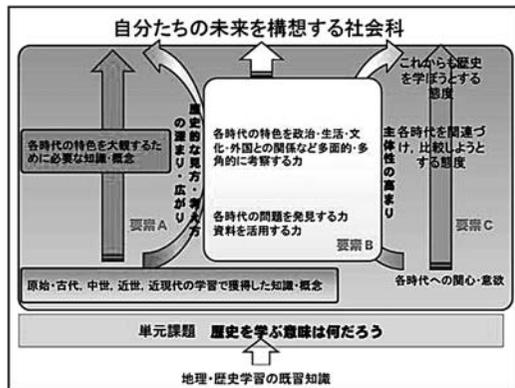
II 研究の概要

1 歴史学習における実践

今回の実践は、歴史学習のまとめという位置づけでおこなった。既習した時代ごとに作成した歴史新聞を活用し、原始・古代、中世、近世、近現代という時代区分を再確認した上で全体を大観させた。その際、各時代の特色を政治（政

治の展開)、生活(産業の発達、社会の様子)、文化の特色(文化)、世界の歴史とのつながり(外国との関係)という四つの視点を活用して、各時代を多面的に見ると同時に様々な立場からその特色を見るようにした。さらに、ジグソー学習を効果的に単元に位置づけた。これらの活動を通して、「新しい時代区分をつくろう」「歴史を学ぶ意味は何だろう」という二つの課題を設定し、学び合い、振り返ることで、今後の日本の国内・国外の動きを予測させた。特に、現代社会につながる動きを考え、よりよい未来を構想しようとする態度を身につけさせるようにした。

具体的な単元は、今までの歴史学習のまとめを4時間で実践していくようにした。資料1は、「これまでの日本 これからの日本」を単元構造図として、まとめたものである。この単元構造図は、授業の内容ではなく、資質・能力をどのように育成していくかを図にしたものである。



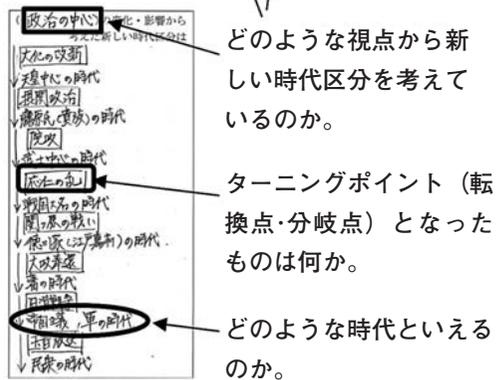
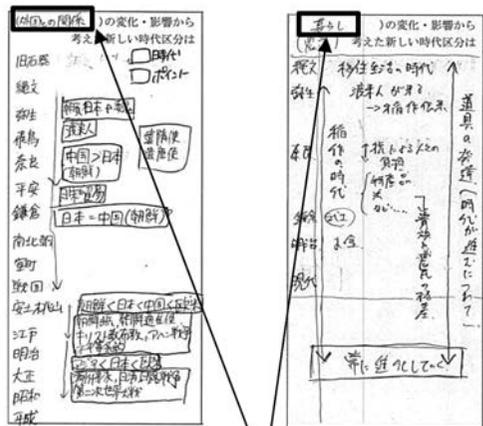
【資料1 これまでの日本 これからの日本 単元構造図】

第1時は、今まで作成した歴史新聞や授業で使用した課題追究用紙(追究用紙)を振り返りながら「これまでの日本」を大観する活動である。これまでの歴史学習を時代ごとに区分するだけではなく、「政治」「生活」「文化」「外国との関係」など、各時代を貫く特色を見出すことに主眼を置いた。

第2時は、第1時の視点からそれぞれの特色をふせんに書き出し、「政治」「生活」「文化」「外国との関係」から見た日本の歴史の移り変わり

を様々な立場で考えさせていく。その際、ジグソー学習のエキスパート学習を活用した。また、ふせんの色も各視点によって固定化するなど工夫をした。

第3時では、第2時のエキスパート学習のグループごとに伝えたいキーワードなどを確認した上で、元のグループで伝達する活動をおこなった。各時代のつながりを多面的・多角的に見ることで、既成の時代の枠にこだわらず、「新しい時代区分をつくろう」という課題に挑戦できた。新しい時代区分を考える上で、何がターニングポイント(転換点・分岐点)となったのか、根拠を明確にした上で、様々な歴史的事象を多面的・多角的に捉えることができた。資料2は生徒が作成した「新しい時代区分の例」である。エキスパート学習の学びだけではなく、四つの視点から統合的にこれまでの日本の歩みを振り返っていた。



【資料2 新しい時代区分 生徒作品例】

第4時では約2年間の歴史学習を振り返り、「歴史を学ぶ意味は何だろう」という課題のもと、今までの歴史学習を振り返り、「これまでの日本」が現代社会に与えた影響について考えた。さらに「これからの日本」について考えることで、歴史学習の意味や公民的分野への円滑な接続をおこなうことができた。

このように、各時代の特色を「政治」「生活」「文化」「外国との関係」から歴史学習の振り返

りと関連づけることによって、まさに「日本の歴史を大観する」ことができた。歴史学習を単に暗記するのではなく、過去と現在との間のつぎることを知らぬ対話、もしくは過去の諸事実と次第に現れてくる未来の諸目的との対話となる歴史学習を今後も追究したい。資料3は、本単元の第3時の授業案であり、資料4、5は追究する様子である。

学 習 活 動	支援及び留意点 ◎評価	形態・時間																
<p>○四つ（政治・生活・文化・外国との関係）のグループから見た日本の歴史についてのキーワードや文章を確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治は権力者の変化や選挙権の拡大によって大きく変わる。時代の特色がわかるかな。 ・生活では、私たちの身の回りの物の変化が大きいな。 ・文化は、少し政治の権力者とも変わるかな。あとは、仏教は今でも続いているから外せないものだな。 ・外国との関係はアジアから近世になってヨーロッパ、そしてアメリカへと広がっている気がする。現代とのつながりがわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めふせんの色に対応したキーワードをA4用紙に書き、黒板に貼る。 政治：青色のふせん 生活：緑色のふせん 文化：黄色のふせん 外国との関係：赤色のふせん ・ネームプレートを貼る。 ・机の形態は小集団から始める。 	<p>小集団 10分</p>																
<p style="text-align: center;">〈予想されるキーワード一覧表〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">政治</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">生活</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">政治の中心の変化</td> <td style="padding: 5px;">生活スタイルの変化</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">選挙権の拡大</td> <td style="padding: 5px;">土地制度や税制度の変</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">権力者 など</td> <td style="padding: 5px;">化 など</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">文化</td> <td style="padding: 5px;">外国と関係</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">アジアから欧米</td> <td style="padding: 5px;">海外との戦争・条約</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">日本独自の文化</td> <td style="padding: 5px;">現代にもつながる関係</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">宗教 など</td> <td style="padding: 5px;"> など</td> </tr> </table>	政治	生活	政治の中心の変化	生活スタイルの変化	選挙権の拡大	土地制度や税制度の変	権力者 など	化 など	文化	外国と関係	アジアから欧米	海外との戦争・条約	日本独自の文化	現代にもつながる関係	宗教 など	など		<p>【資料4 小集団における追究場面】</p>
政治	生活																	
政治の中心の変化	生活スタイルの変化																	
選挙権の拡大	土地制度や税制度の変																	
権力者 など	化 など																	
文化	外国と関係																	
アジアから欧米	海外との戦争・条約																	
日本独自の文化	現代にもつながる関係																	
宗教 など	など																	
<p>○これまでの日本の歩みを振り返って、最も大きな変化や影響を与えているものはどれだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国との関係が最も重要ではないかな。海外の影響を強く受けているから。 ・衣・食・住の変化は全ての項目に影響を与えているから大きいものだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最も大きな影響や変化を与えているものの近くに、ネームプレートを貼る。 <p>◎各担当分野（政治・生活・文化・外国との関係）のまとめの成果を生かし、「新しい時代区分をつくらう」という課題を、ターニングポ</p>	<p>小集団 ↓ 個人 ↓ 一斉 10分</p>																
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">新しい時代区分をつくらう</div>																		

- ・新しい時代のターニングポイントはいったい何だろう。生活だと身の回りの物の変化かな。例えば、「米の時代」と「お金の時代」はどうだろう。
 - ・現代に近づくにつれて、外国との関係の変化が生活や文化に大きな影響を与えていることがわかる。特に、現代社会でも欧米の影響は特に大きくなっている。このような世の中の変化から「アジアの時代」や「世界と関わる時代」といえる。
 - ・貴族から将軍など、権力者の移り変わりが各時代の特色を表している。現代は選挙権が18歳以上の男女と変化している。だから、「貴族の時代」「武士の時代」「庶民の時代」と区分できそうだ。
 - ・四つの視点を全て総合して考えると、市民革命や産業革命に代表される「革命」があったから、「日本・世界の革命時代」といえるのではないかな。
- 次回は歴史学習の集大成として、「歴史を学ぶ意味」を考えます。この約2年間の学びを踏まえて、考えておきましょう。

【資料3 本時の授業案】

2 生徒のあらわれ

(1) アンケート結果より

単元課題「新しい時代区分をつくろう」は興味をもって取り組める課題でしたか。

- ・はい 70人
- ・どちらかというとはい 40人
- ・どちらかというといいえ 8人
- ・いいえ 1人

〈生徒の記述（一部）〉

- ・今までの学習してきたことをまとめ、縦(様々な面や立場)・横(時代の流れ・時間軸)に見ることで、歴史を整理することができた。
- ・新しい時代区分を自分でつくるのも楽しかったけど、他の人の考えを聞いて、自分が思いもつかなかった分け方をしているのを知るのが楽しかった。
- ・今まで時代区分を変えてみようとか考えたこ

イントを明確にした上で、構想することができたか。

(思考力・判断力・表現力)

- ・教師による意図的指名をおこなう。その際、政治・生活・文化・外国との関係など、違う視点からまとめている生徒を指名する。
- ・追究用紙の内容を吟味し、意図的に指名をおこなう。できれば、2名程度に発表させる。

個人
↓
小集団
(ペア)
↓
一斉
30分



【資料5 全体における追究場面】

とはなかったし、やったこともなかったから、最初は考える範囲が広くて難しかった。しかし、やっているうちに、いろいろな視点から今まで習ってきた時代を見ることができた。これまでの日本の歩みを広い視野から捉えることができた。

- ・決まっていたものや用語を知識として頭に詰め込むのではなく、自分がその時代に何を感じたのかという「自分」で考えられる振り返りになった。
- ・過去の新聞や振り返り用紙を見直すと、追究用紙の質により、自分の成長がよくわかり、とてもよい復習にもなった。

(2) 生徒の変容

質問項目による量的な回答だけではなく、生徒の追究用紙を分析して質的な変容を理解するために用いている。歴史学習の始まりとなる1

年時と、歴史学習の終わりとなる3年時に、「歴史を学ぶ意味は何か」を質問した結果である。このようなループリックは事前に生徒に示し、説明をしている。

調査方法： 追究用紙 アンケート 調査問題		1 年 時	3 年 時
4	原始・古代、中世、近世、近現代に関わった人物や出来事の歴史的背景にふれ、それらを四つの視点(政治・生活・文化・外国との関係)などから考えることができた。また、現代社会のつながりから、歴史を学ぶ意味を自分なりに理解できた。	0	7 8
3	原始・古代、中世、近世、近現代に関わった人物や出来事の歴史的背景にふれ、それらを四つの視点(政治・生活・文化・外国との関係)などから考えることができた。また、歴史を学ぶ意味を自分なりに理解できた。	1 0	3 6
2	原始・古代、中世、近世、近現代に関わった人物や出来事にふれ、それらを四つの視点(政治・生活・文化・外国との関係)のうち、一～二つを例に考えることができた。また、歴史を学ぶ意味に気づくことができた。	5 4	5
1	原始・古代、中世、近世、近現代に関わった人物や出来事にふれているが、資料の読み取りが浅く、事実の捉えが不明確だった。	5 5	0

【資料6 本単元におけるループリック】

これらのことを確認するために大きく二つの調査問題をおこなった。

①調査問題ア「原始・古代、中世、近世、近現代に関わった人物や出来事にふれ、これまでの日本の歩みを書きなさい」

Ⓐ三～四つの視点から捉えられている生徒

88人

〈記述例〉

政治のキーワードでは、権力者や中心地、産業が挙がった。権力者の方針により大宝律令や明治維新などにつながった。その動きは政治だけに限らず、外国との関係により、多くをアジアから、近世以降はヨーロッパから学んだ。その影響を受け、国民生活も変化し、文化の担い手となった人々も貴族から武士、商人、庶民へと変化をして現在に至っている。過去を知ること、未来をよりよいものにできるところが歴史のすごいところだと思った。

Ⓑ二つの視点から捉えられている生徒 27人

〈記述例〉

外国との関係の変化がこれまでの日本に大きな影響があったと考える。渡来人に始まり、遣隋使・遣唐使など多くを大陸から学んだ。やがて、南蛮貿易によってヨーロッパとの貿易が盛んになった。鎖国後は欧米の進んだ文化・思想にふれることによって、明治維新を成し遂げることができた。海外との関係が文化にも大きな影響を与えていると思う。

Ⓒ一つの視点からしか捉えられていない生徒

4人

〈記述例〉

生活は道具・税・衣食住の変化が大きい。米を中心に動いていた時代からお金を中心に回っている現代まで、たくさんの道具が発明されていることがわかった。

②調査問題イ「『歴史を学ぶ意味』とは何でしょうか」

資料7は、1年生当初の時の「歴史を学ぶ意味は何ですか」という質問に対する生徒の回答である。資料8は、今回の実践後の変化である。

- ・過去にあったことを知るため
- ・義務だから
- ・教えてもらうものだから
- ・テストがあったから
- ・考えたことはなかった など

【資料7 1年生当初の回答】



- ・私たちの暮らしを豊かに、幸せにするため
- ・過去の出来事を知り、それを今につなげていくため
- ・後世によりよい社会を受けついでいくため
- ・人間の本質に迫るため
- ・未来への貯金 など

【資料8 今回の実践後の回答】

この比較から1年生当初はまだ表面的な学びになっていたものが、3年生の今回の実践によって、より深い学びができていたことがわかった。具体的にどのようなことがきっかけでこのように変化したのかは、今後の調査で明らかにしていきたい。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

生徒の1年生当初のアンケートと比べ、「歴史を学ぶ意味」について、より深い捉えができていたことがわかった。様々な要因が考えられるが、その最も大きなものとして挙げられるのは、魅力ある課題（問い）をつくることである。各時間の課題はもちろんのこと、単元を貫く課題を何にするかによって生徒の学びに向かう姿勢は変化する。生徒の好奇心を刺激しながら、学びが持続できる課題を本校ではパフォーマンス課題の中に盛り込みながら実践している。その結果、あらゆる立場や場面を設定し、生徒に

とって切実感のある課題となっていることは複数のアンケート結果からも実証されてきた。また、視点を設けずにこれまでの日本の歩みを振り返る質問項目でも、四つの視点を中心に、さらに細分化された視点(思想や支配地域の拡大)や公民的分野の学習につながる視点(憲法や女性から見た歴史)等が挙げられた。大きな時代区分である原始・古代、中世などという時間軸だけではなく、多面的・多角的な考察ができつつある。歴史学習の総まとめという位置づけで、今回の実践をアレンジしながら公立中学校でも取り入れることができるという意見も協議会の中で公立中学校の先生方からあった。今後も継続して、歴史的分野において、主体性をもって参加することをどのようにおこなうか、研究していきたい。

2 課題

時代をつくるという大枠から外れ、細分化して新しい区分をつくっている生徒が数名見られた。時代を大観し、その枠組みをつくるという認識をもち、三～五つくらいの区分ではどうかという意見もあった。他学級でこの意見を参考に実践したところ、時代区分はもちろんのことターニングポイントが明確になり、時代を大きく考察することができた。今後の歴史学習において、先述したパフォーマンス課題やルーブリックの作成に取り組みながら、主体的に社会に参加(参画)する生徒を育てる社会科のあり方を模索していきたい。そのためにも、よりよい未来を構想する社会科の単元開発をさらに進めていきたい。

Ⅳ 今後へ向けて

昨年度から、公立中学校の課題となっていた歴史的分野における研究を柱として実践を重ねた。生徒たちの中で「歴史＝暗記」と定着した学習を、どのような工夫により打破できるかが問われた研究となった。その結果が、この2年

間3ヶ月の授業で培われた「歴史を学ぶ意味」にあると考える。この期間の学習で、生徒の歴史学習の固定概念を大きく覆してきたと言っても過言ではないだろう。さらに、現代とのつながりはもちろん、近未来を構想する歴史授業のあり方を検討していきたい。

最後に、今年度は「考察」と「構想」を関連づけながら、「主体的に社会に参加する生徒を育てる単元開発」の具現化につなげていきたいと考える。歴史的分野に限らず、社会科の授業全般で実践を重ねることで、主体的に社会に参加する生徒を育てることを続けていきたい。